

2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部  
言語コミュニケーション学域 「人文学プロポーズ方式」

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
言語コミュニケーション学域	15	5	4

**2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

第一次選考では次のような点を評価しました。

- ①学域（専攻）の学びを理解し、自身が学びたいこと、探究したいことが照応しているか
- ②学びたいこと、探究したいことを 4 年間で実現する過程が、具体的に記述できているか
- ③一般論でなく自分の言葉で、自身の能力や経験等に基づき説得的に説明されているか
- ④学びたいことや探究したいことにかかわる、受験時点でも備えておくべき知識や能力を有しているか

(2) 解答状況

多くの受験生で、本学域で学びたいこと、研究したいことは、丁寧に書かれていました。ただ、そのなかで核となる「コミュニケーション」「日本語教育」「表現」といったキーワードが、やや曖昧に多用される傾向がみられました。その結果、論述が一般的で抽象的なレベルにとどまるものがありました。具体的な事例や、自身の体験・エピソード等で裏打ちされた記述には、臨場感があり、説得力がありました。みなさん自身が考える「コミュニケーション」とは、「日本語教育」とは、「表現」とはどういったものか、愚直でもそれを自分自身の体験や身の丈にあった言葉で丁寧に説明することが肝要です。

やりたいことは明確で、自分の言葉で説明もできていながらも、本学域（専攻）の 4 年間の学びのなかで、その関心を具体的にどういった手順で学術的に積み上げていくのか、というプランが曖昧であるものも少なくありませんでした。

プロポータルシートではイラストを使い、わかりやすく伝えようという工夫は良いのですが、イラストにキーワードが散りばめられるだけという傾向もうかがわれました。私たちが、みなさんの伝えたいことを一生懸命に、「ああかな」「こうかな」と解釈しなければならないようなものは、そもそも評価の土俵にのりません。プロポータルシートの自由度はうまく利用していただいて構わないのですが、内容がイメージのレベルにとどまらないよう留意しましょう。

**3. 第二次選考**

(1) 評価ポイント

第二次選考ではプレゼンテーションと個人面接を通して、次のような点を評価しました。

- ① 言語コミュニケーション学域で学ぶための基礎学力を有しているか
- ② 自ら主体的に考え、行動してきた経験があり、入学後同様に主体的に学ぶ意欲があるか
- ③ 人文学のトピックを論理的かつ独創的にとらえ、考えられているか
- ④ 自身の考えを正確に伝えられる資料と説明を提示することができているか
- ⑤ 文学部と本学域の学びを理解した上で、テーマを探究するための適切な計画が立てられているか

## (2) 解答状況

プレゼンテーションでは自身の経験や長年の観察を、言語コミュニケーション学域の学びという視点で切り取り、問題を明確にし、解決にアプローチするものが多くみられました。プレゼンテーションの資料や説明はよく準備されていました。一方、自身の探求したい《問い》が抽象的であるため、プレゼンテーションで用いられる用語も「非言語」や「メディア」といった具体性に乏しいものが多く見られた結果、説得力に欠けるプレゼンテーションになってしまったものもありました。

学習・活動計画でも、受験者間で差がありました。卒業後のキャリアイメージは明確であるが、学習計画が曖昧なものがあったり、逆に学習計画はしっかりと立てられているが、大学での学びを通して何を得たいと考えているかが曖昧なものがあったりと、一部に重点を置きすぎて全体のバランスが悪いものもいくつか見受けられました。

個人面接では、私たちの質問の意図を適切に理解し、真摯に応答していました。

## (3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

プレゼンテーションでは、予め準備した PowerPoint によるスライド資料を用いて、自身が探究したいテーマや学習・活動計画を示してもらいました。またその内容に基づき、質疑応答を行いました。

面接では、エントリーシートに基づき志望動機や将来の展望を語ってもらい、質疑応答を行いました。

## (4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

プレゼンテーションも個人面接のいずれも（1）で述べた点を評価するためのものです。

## (5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

プロポーズ方式は、受験者自身の深い関心に基づいたテーマを提示してもらったところから始まります。つまり、みなさんにそういったテーマ、さらにはそのテーマについての自分なりの《問い》がなければなりません。それは出願時の段階で学術的な研究のような内容まで整理、昇華されてなくても構いません。しかし、自身にとって重大な経験や精密な観察、強い関心と深い思索に基づいたものでなくてはなりません。その上で、自身のテーマと《問い》がどのように大学での学びの中に位置付けられるのかをしっかりと確認しておく必要があります。そうでなくては、自身の言葉で語る事ができる、説得的なプレゼンテーションや学習・活動計画を提示することは難しいでしょう。決して、受験のために出来合いの情報から机の上で気軽に思い巡らせたようなものであってはなりません。その意味で、いわゆる「上手な」プレゼンテーションよりも、拙くとも真摯に自分自身の《問

い》に向き合ったプレゼンテーションの方が説得力を持ちうることを理解して下さい。

また、学習・活動計画は、単純な履修計画を求めているものではありません。人生のなかで心身が最も研ぎ澄まされる時期に、本学が抱える、単に授業というだけではない、さまざまなリソースを踏まえ、探究したいテーマと将来の展望につながる、具体的かつ意欲的で、実践可能な計画を考え抜いてください。

以上